

イギリスにおける国際バカロレアをめぐる資格認証 制度に関する研究

花井, 渉

<https://doi.org/10.15017/1806796>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（教育学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	花井 渉			
論文名	イギリスにおける国際バカロレアをめぐる資格認証制度に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	竹熊尚夫
	副査	九州大学	教授	Edward Vickers
	副査	九州大学	准教授	木村拓也
	副査	九州大学	教授	加藤和生

論文審査の結果の要旨

本論文は、イギリスにおける国際バカロレア（IB）をめぐる資格認証制度の構造と機能を明らかにし、IB 認証制度の構築が資格試験制度に与える影響について、マクロ（制度の構築と変容）及びミクロ（資格・カリキュラム、科目単元を通じた能力認定）な視点の相互関係から明らかにしたものである。本論ではまずイギリスにおける資格試験制度改革の歴史的変遷の検討から A レベル優位性の是正といった認証制度構築をもたらした諸要因を析出し、これを踏まえ、資格試験規制局（Ofqual）や大学・カレッジ入学サービス機構（UCAS）を中心とした認証制度の中で、海外資格に「開かれた」構造と共に新たな資格への「規制強化」の機能を持つアンビバレントな実態を浮き彫りにした。その一方で、大学アドミッションオフィスへの調査を通じて、認証制度で作られた全国統一認証基準とは異なる、大学独自の基準が設定されていることにより、IB 認証におけるデュアル・スタンダードの存在も明らかにしている。こうした分析から本研究は、海外資格認証における規制基準に A レベルをベンチマークとしたことによって逆に資格試験制度がバカロレア化へと向かうメカニズムを生じさせた点を指摘すると共に、IB の特徴である 3 要件の一部のみを既存の資格に追加するといった IB の断片的ローカル化や、独自のコア学習の導入による標準化されたバカロレア型資格の拡大化のプロセスを解明するに到っている。

以上のように、認証制度の構築と多様な資格制度を丹念に検証し、その変容のプロセスを明らかにした点は、比較教育学における海外学歴・資格への評価制度及び制度的変容に関する研究に新たな知見を加えるものであると評価できる。よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。